

第2回信州大学の留学生のニーズ調査

—2000年11・12月調査において—

佐藤 友則・秋庭 裕子

キーワード : 教官への相談、勉学・研究面の悩み、交流活動、地域との連携

要旨

信州大学の留学生のニーズを明らかにし、学内の留学生受け入れ体制の改善を目的とした調査を、昨年度に続いて実施した。第2回目となる本調査には、全留学生中181名からの回答があった。その結果、①勉学と並んでお金および宿舎の問題が依然として大きいこと、③日本語能力に自信があっても、今以上に日本語の授業を受けたい希望があること、④日本人との接触は多くないが、今後は交流していきたいと考えている留学生が多いこと、⑤接触の場として、交流活動が高く評価されていることなどが明らかになった。これらの実態から、留学生のニーズに対応した受け入れ支援体制の整備には、大学、留学生、周辺地域という三者の連携が不可欠であるという提案を行った。

1. 研究の目的

昨年度は信州大学の留学生受け入れ体制の充実化という意味で転換期となる年であった。1つは、留学生センターの開設である。現在、各学部の留学生を対象に日本語・日本事情を開設し、日本語運用能力の向上と日本文化の理解を目指している。また、大学院入学前の研究生を対象とした日本語研修コースや、日本語能力のレベルアップを目指す大学院生などを対象にした日本語補講も実施し、学内の日本語教育の中心的役割を担っている。その一方で、学生同士の交流活動、そして、学外との交流活動にも力を入れ、留学生と社会とのパイプ的役割も担っている。また、教官サイドも、留学生センターを中心とした連携体制確立と情報交換を兼ねて、「留学生担当者連絡会」を年に2～3回程度開催している。2つ目は、長野の国際交流会館の竣工である。信州大学は5つのキャンパスに分散しているため、1年次に松本に居住し、1年後に別の街で新しい住居を探すことは、日本人にとっても経済的・精神的苦痛が大きい。そのことを考えると、日本事情に疎く収入面でも不安定な留学生が、入学一年後、再度新たな環境で暮らす苦労は計り知れない。それを考えるに、教育・工学部のある長野市に第二の留学生会館が設立されたことは、留学生受け入れの面でも大きな前進といえる。しかし、松本と長野の国際交流会館の部屋数を合わせても、総数96室しかなく、全留学生数の3分の1にも満たない状況であり、留学生の宿舎の問題

解決にまでは至っていない。現に、昨年度の第1回留学生ニーズ調査では、大学に対する要望として、「宿舎の問題の解決」が第1の要望として挙がっていた。その他にも、留学生に係る問題は多岐にわたっており、その実態把握と問題解決のためにも、正確な留学生ニーズの把握が不可欠である。

そこで、本研究では、「日本語教育」、「留学生相談」という前回の調査趣旨に「日本人との交流」も加えて、8つの部局に分散している留学生を対象にニーズ調査を実施し、昨年度明らかになったニーズを更に明確化し、今後の留学生受け入れ体制の整備に役立てていくことを目的とする。本調査では、昨年度の調査での改善点も含めて、大学と留学生間のニーズを更に掘り下げるだけでなく、「日本人との接触」という項目も設け、交流活動の現状と今後の課題についても検討することとした。また、日本語教育機関としての留学生センターのあり方を問う上で、「受講したい日本語の授業」についても質問項目を作成した。

2. 調査の方法と概要

(1) 調査時期：2000年11月～12月

(2) 調査方法：調査票を郵送、または留学生関係教職員の協力のもと配布し、指定のボックスに提出してもらった形をとった。調査項目は大きく6つに分けた；

①留学生個人に関する質問

②問題処理に関する質問

③日本語能力に関する質問

④アルバイトに関する質問

⑤日本人との接触に関する質問

⑥大学に対する満足度に関する質問

(3) 調査対象者：学部生、大学院生、聴講生および研究生を含めた、信州大学に2000年11月の時点で在籍する全留学生を対象とした。昨年度の調査同様、留学生センター教官、各部局の留学生担当教官ならびに留学生関係の事務官の多大な協力を得て、181名の留学生から回答を得た。2000年11月時点での全留学生数は339名のため、回収率は53.4%である。181名の内訳は、共通教育28（この中には、1・2年次留学生が混在している）、人文8、経済40、教育7、理7、医33、工28、農10、繊維14、留学生センター6である。

(4) 使用言語：日本語、英語、中国語の3種類の調査用紙を準備した。

(5) 検定：データの信頼性を測るため、各項目のカテゴリー間の差が有意かどうかを、1条件の2項検定と1条件の χ^2 乗検定を用いて検定した。その検定結果も併記する。

3. 調査の結果

ここでは、181名の留学生の集計結果を項目ごとに挙げていく。煩雑さを避けるため、括弧左の数値を人数、括弧内の数値を比率とし、%表示は省略した。

3-1. 回答者の属性

(1) 性別：①男性 97(53.6) ②女性 84(46.4)

- (1) 性別：①男性 97(53.6) ②女性 84(46.4)
 (2) 出身地域：①中国 117(64.6) ②マレーシア 11(6.1) ③台湾 11(6.1)
 ④韓国 12(6.6) ⑤バングラデシュ 7(3.9) ⑥その他 23(12.7)
 (3) 所属：①学部 75(41.4) ②大学院生 73(40.3) ③研究生および聴講生 33(18.2)
 (4) 滞日期間：①1年以内 38(21.0) ②1年～3年 77(42.5) ③3年以上 66(36.5)
 (5) 奨学金：①ある 110(60.8) ②ない 71(39.2)

3-2. 相談相手

この「相談相手」では、勉学面での悩みをより明確化するために、昨年度の調査項目に新たな項目を加えた。なお、この項目以降、データの信頼性を測るため、各項目のカテゴリー間の差が有意なものかどうかを、1条件の2項検定と1条件の χ^2 乗検定を用いて検定した。ただし、複数回答可の項目については検定を行っていない。

(1) 「信州大学に入学してから、1人ではどうしようもないほど困ったことがありますか」:

- ①ある 111(61.3) ②ない 70(38.8)

この項目で2項検定を行ったところ、 z 値=2.71で、1%水準で有意に異なる($\rho \leq .01$)という結果を得た。

(2) 「困ったときにすぐに相談できる人は何人いますか」:

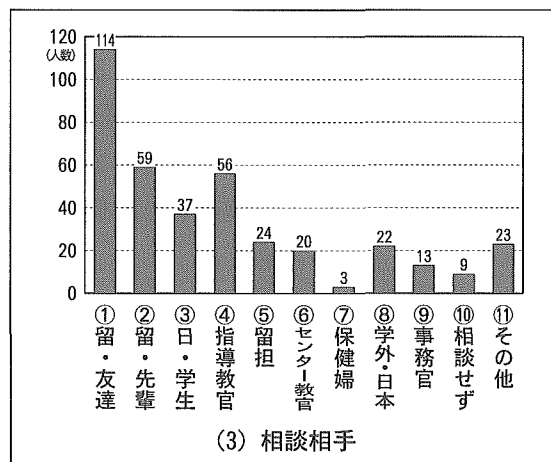
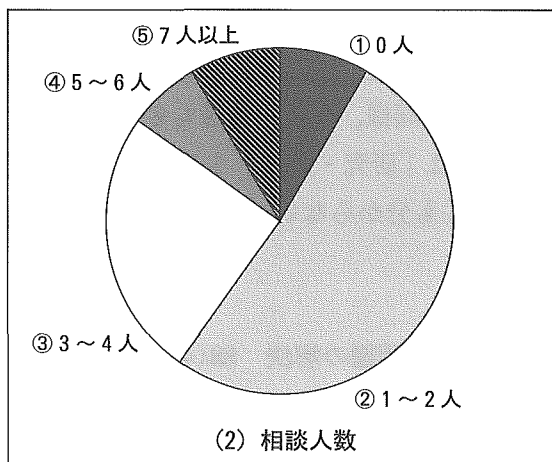
- ①0人 15(8.3) ②1～2人 93(51.4) ③3～4人 45(24.9)
 ④5～6人 12(6.6) ⑤7人以上 16(8.8)

この項目では χ^2 乗検定を行い、 χ^2 乗値=124.16, $\rho \leq .01$ という結果を得た。

(3) 「困ったときに誰に最初に相談しますか」(複数回答可):

- ①留学生の友達 114(63.0) ②留学生の先輩 59(32.6)
 ③日本人学生(チューター含む) 37(20.4) ④指導教官 56(30.9)
 ⑤学部の留学生担当教官 24(13.3) ⑥留学生センター教官 20(11.0)
 ⑦保健婦 3(1.7) ⑧学外の日本人 22(12.2) ⑨事務の人 13(7.2)
 ⑩誰にも相談しない 9(5.0) ⑪その他 23(12.7)

⑪その他の項目には、妻、夫など既婚者の多い留学生の意見を反映したものとなった。



ここまでの結果から、回答者の留学生の半分以上が、自分1人では解決できない問題に直面したことがあり、その相談相手が1～4人程度いる者が多いことが分かる。しかし、相談相手が0人と答えた留学生が8.3%いたことは気がかりである。

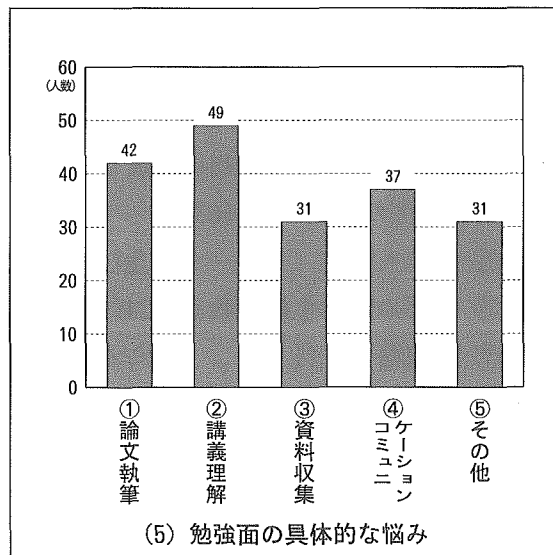
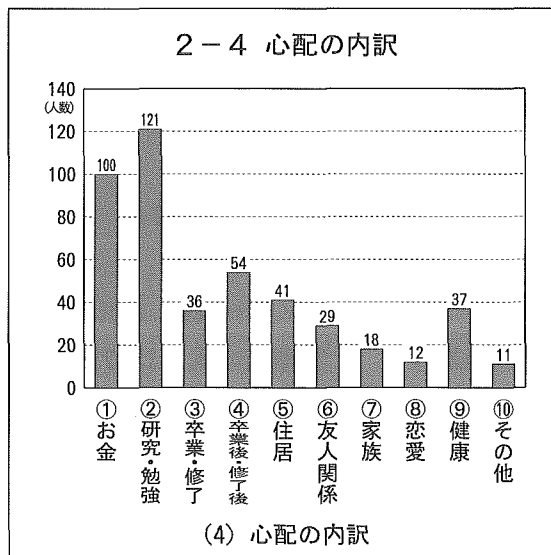
相談相手としては、留学生仲間にもまず相談することが多く（留学生の友達および先輩）、昨年度と同様の結果となった。前回と大きく異なるのは、⑥留学生センター教官への相談が20人という回答を得たことである。質問方法が異なるため、一概には言えないが、これは、同センターが留学生の間で少しずつ認知されてきたことを表す数字であると思われる。

(4) 「どんなことで、よく心配をしますか」(複数回答可)：

- ①お金 100(55.2) ②研究・勉強 121(66.8) ③卒業・修了 36(19.9)
 ④卒業後・修了後 54(29.8) ⑤住居 41(22.7) ⑥友人関係 29(16.0)
 ⑦家族 18(9.9) ⑧恋愛 12(6.6) ⑨自分の健康 37(20.4) ⑩その他 11(6.1)

(5) 「上の質問で②研究・勉学の進め方を選んだ人に質問します。具体的にどのようなことで悩んでいますか」(複数回答可) この項目は今回、新たに加えたもの：

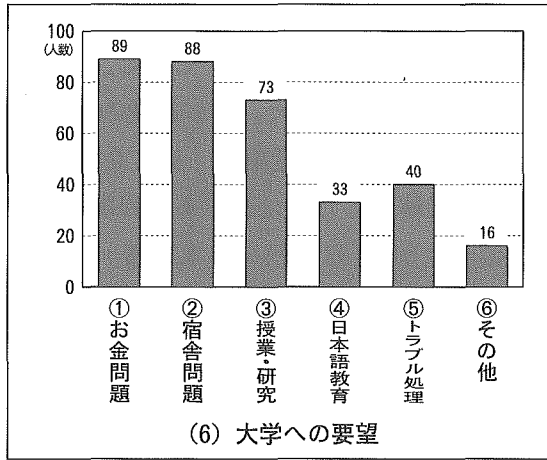
- ①論文が書けない 42(34.7) ②講義を聴いても分からない 49(40.5)
 ③資料収集の方法が分からない 31(25.6)
 ④先生とうまくコミュニケーションがとれない 37(30.6) ⑤その他 31(25.6)



留学生が抱える悩みとしては、「研究・勉強」が前回と同様、全項目で最も多く、「お金」よりも問題視されていることがわかる。今回の調査では「研究・勉強」を選択した回答者に対し、具体的な悩みを調査した結果、「講義を聴いても分からない」、「論文が書けない」という項目が上位を占めた。

(6) 「大学にどんな要望がありますか」(複数回答可)：

- ①お金の問題の解決 89(49.2) ②宿舎の問題の解決 88(48.6)
 ③授業・研究の問題の解決 73(40.3) ④日本語教育の問題の解決 33(18.2)
 ⑤トラブル処理に関する問題の解決 40(22.1) ⑥その他 16(8.8)



一方、大学に対する要望からは、上述の「授業・研究の問題」より、「お金の問題」と「宿舎の問題」の解決を望む実態が浮き彫りとなった。お金、つまり奨学金や授業料免除などの金銭的援助と、宿舎、つまり安価で便利な住居斡旋の支援により、まず留学生の生活の安定を大学側が保証していく体制が必要であるといえる。そのためには、新しい工夫や、大学だけではなく、留学生を取り巻く周辺住民との連携を強化していく必要がある。

3-3. 日本語能力

(1) 「自分の日本語能力に自信がありますか」： (χ^2 乗値=55.37, $\rho \leq .01$)

①ある 67(37.0) ②まあまあ 99(54.7) ③ない 16(8.8)

(2) 「もっと日本語の授業を受けたいですか」： (χ^2 乗値=54.95, $\rho \leq .01$)

①必要ない 25(13.8) ②今のままで十分だ 50(27.6) ③受けたい 106(58.6)

(3) 「③受けたいを回答した人にお尋ねします。具体的にどのような授業を多く受けたいですか」(複数回答可) この項目は今回、新たに加えたもの：

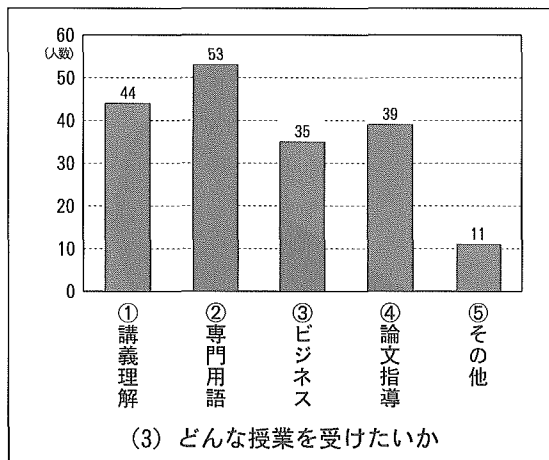
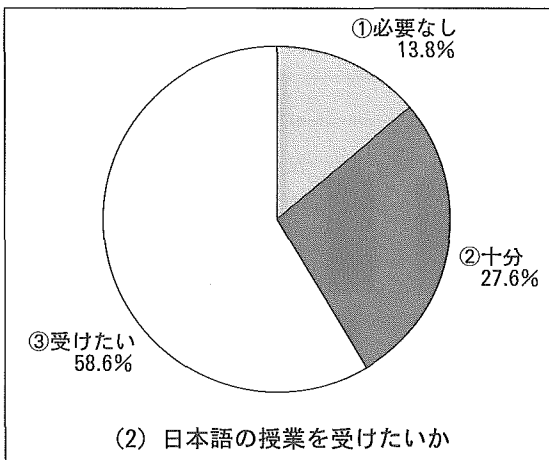
①講義を聞いて理解できるための授業 44(41.5)

②専門用語の学習のための授業 53(50.0)

③就職のためのビジネス日本語の授業 35(33.0)

④論文を書くための授業 39(36.8)

⑤その他 11(10.4)



日本語能力を主観的に判断してもらった結果、回答者のうち9割近くが、自分の日本語能力にある程度自信を持っていることがわかった。しかし、回答者の半数以上が、大学での日本語の授業を今以上に望む傾向が見られた。その授業の具体的な要望は、多い順から、「講義を理解するための授業」、「専門用語の授業」、「論文を書くための授業」「ビジネス日本語の学習」となった。講義を理解するためには、ある程度の専門知識の学習と予備知識が不可欠であることから、留学生が、「日本語・日本事情」と「日本語補講」だけではなく、自分の専門性に応じた日本語の授業を求めているといえよう。

3-4. アルバイト

(1)「現在、アルバイトをしていますか」:(2項検定の結果、z値=0.75で、有意差なし)

- ①はい 96(53.0) ②いいえ 85(47.0)

(2)「アルバイトをしている人は、1週間に何時間位していますか」:

- ①2時間以下 6(6.3) ②2~4時間 10(10.4) ③4~6時間 20(20.8)
④6時間以上 60(62.5) (χ^2 乗値=71.96, $\rho \leq .01$)

この調査結果は、前回同様、アルバイトをしている者、していない者にほぼ二分されており、「している」と答えた回答者のうち約6割が、週6時間以上のアルバイトに従事していることが分かった。また、アルバイトと奨学金の相関について調べたところ、回答者中約6割の留学生が奨学金を受給しているものの、そのうちの4割がアルバイトをしている実態が明らかになった。そのような留学生数人にインタビューして理由を聞いたところ、「日本社会での経験を積むため」「適度に働くほうが勉強に身が入る」といった回答が多かった。

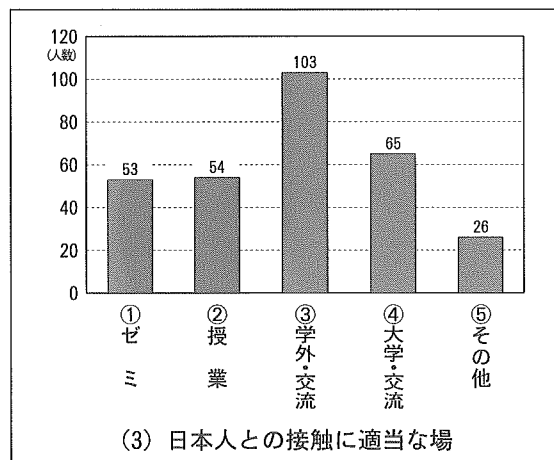
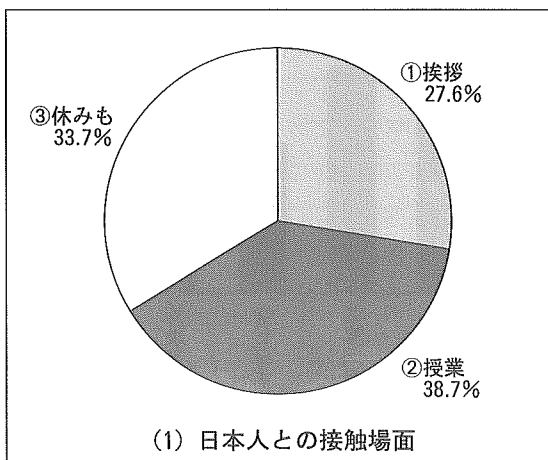
3-5. 日本人との接触

(1)「あなたは、日本人とどの程度接触していますか」:(χ^2 乗値=4.20, $\rho \leq .20$)

- ①あいさつのみ 50(27.6)
②授業ではよく話すが、休みに会うほどではない 70(38.7)
③放課後や休日に食事をする 61(33.7)

(2)「今後、日本人と接触する機会を持ちたいですか」:(z値=10.97, $\rho \leq .01$)

- ①持ちたい 166(91.7) ②それほど持ちたくない 15(8.3)



(3)「日本人と仲良くなるのに適当な、接触の場はどれですか」(複数回答可)：

- | | | |
|---------------------|---------------|--------------------|
| ①ゼミ 53(31.9) | ②授業 54(32.5) | ③学外の交流活動 103(62.0) |
| ④大学主催の交流活動 65(39.2) | ⑤その他 26(15.7) | |

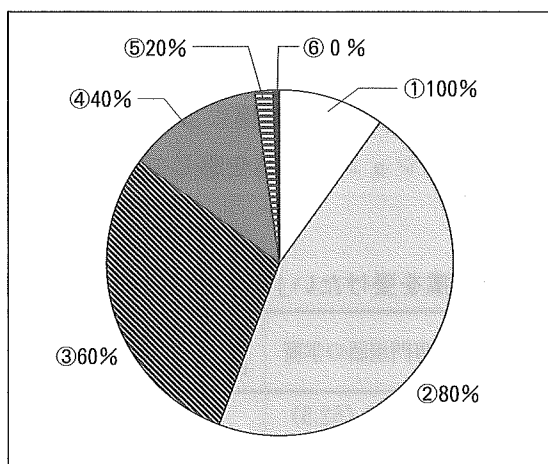
この調査結果では、日本人とは「あいさつのみ」の関係である留学生が27.6%もいることがまず注目に値する。また、「放課後や休日に食事をする」ほど日本人と親しく接触している留学生は約3割ほどいるが、日本人と今度も接触を望む留学生は約9割と非常に多く存在していることが分かる。さらに、日本人と仲良くなれる適切な場として、多い順に、学外の交流活動、大学主催の交流活動、授業、ゼミが挙げられており、その中でも、学外の交流活動が約6割の留学生から圧倒的に支持されている。大学、下宿、アルバイトの往復で終わる毎日を過ごしている多くの留学生にとって、大学外の人々と知り合える交流活動が、大変有意義な活動として評価されていることは注目に値する。その一方で、このような交流活動が土日に多いため、参加したいがアルバイトの関係で参加できないという意見もよく耳にする。土日以外の実施も検討してもらえれば幸いである。

3-6. 総 合

「あなたの、信州大学に対する満足度をパーセンテージで教えてください」：

- | | | |
|---------------|---------------|---------------|
| ①100% 18(9.9) | ②80% 83(45.9) | ③60% 53(29.3) |
| ④40% 23(12.7) | ⑤20% 3(1.7) | ⑥0% 1(0.6) |

(χ^2 乗値=17042, $p \leq .01$)



これを見ると、回答者の55.8%にあたる留学生が、信州大学に80%ないし100%満足している。留学生が、大学のどのような点を考慮して満足度を示したかはそれぞれ異なるが、上述の結果から分かるように、大学への要望が数多くあっても、現状では多くの留学生がある程度満足しているように見える。しかし、今回のデータは全留学生の53.4%のものであり、回答しなかった留学生の中にこそ、不満を持っている留学生が多くいることも予想されるため、一概にこのデータから「満足度が高い」と結論づけることはできないだろう。

4. 属性別のソート結果

ここでは、大きな特徴の現れた属性によるソート結果を用いて記述していく。

「困ったことがあるか」という質問に対し、学部生50.7%、大学院生78.1%、研究生および聴講生（以下、研究生）48.5%が「ある」と回答した。その悩みの内訳では、どの属性の留学生も、「研究・勉強」を最も多く挙げ、それに次いで「お金」、「卒業後・修了後」の順であった。そこで、「研究・勉強」の悩みを具体的に質問したところ、各属性で以下の〔表1〕の結果を得た。

〔表1〕「研究・勉強」の悩みを挙げた留学生の属性による内訳

	論文が書けない	講義を聞いても 分からない	資料収集の方法 が分からない	指導教官との コミュニケーション	そ の 他
学 部 生：56名	18 (32.1)	30 (53.6)	16 (28.6)	15 (26.8)	15 (26.8)
大学院生：44名	17 (38.6)	10 (22.7)	8 (18.2)	19 (43.2)	12 (27.3)
研 究 生：21名	7 (33.3)	9 (42.9)	7(33.3)	3 (14.3)	4 (19.0)

学部生は、入学前、「日本語能力試験1級」を受験し、その結果を参考に入学が可能となる程度の日本語能力を有している。それにも関わらず、半数を越える学部生が「講義を聞いても分からない」と答えている。これに対し、大学院生は、講義理解困難という悩みを持つ者は少なく（22.7%）、「指導教官とうまくコミュニケーションがとれない」という悩みが最も多い(43.2%)。これに次いで「論文が書けない」という悩みが挙げられている。これは、講義中心の生活を送る学部生と、指導教官のもとで論文執筆を行う大学院生の悩みを反映した結果といえるだろう。今後は、指導教官とコミュニケーションがとれない理由が、日本語能力不足によるのか、異文化間摩擦によるのか、調査の必要があると考える。半数近い大学院生がコミュニケーションの問題を感じていることは、看過できないことと言える。

〔表2〕「日本語の授業を受けたい」と答えた留学生の属性による内訳

	講義の理解	専門用語の学習	就職のための ビジネス日本語	論文指導	そ の 他
学 部 生：40名	13 (32.5)	21 (52.5)	21 (52.5)	20 (50.0)	3 (0.1)
大学院生：45名	22 (48.9)	23 (51.1)	9 (20.0)	14 (31.1)	3 (6.7)
研 究 生：21名	9 (42.9)	9 (42.9)	5 (23.8)	5 (23.8)	5 (23.8)

また、このような勉学の悩みを日本語教育という面で解決できないかと考え、もっと受けたい日本語の授業を具体的に質問した。その結果を、属性によりソートした結果が〔表2〕である。これをみると、学部生は、「専門用語の学習」、「ビジネス日本語」、「論文指導」を目的とした日本語の授業を希望していることが分かった。大学院生と研究生に比べ、ビジネス日本語の学習を希望する留学生が多いのが特徴である。実際、留学生の日系企業

への就職は多く、今後の就職活動を考えて、さらに上級のビジネス日本語を習得したいという意欲が表れたものといえる。大学院生の場合、「専門用語の学習」、「講義の理解」を目的とした日本語の授業への希望が特に多く、研究生は、論文執筆や就職が数年後にあるためか、「講義の理解」と「専門用語の学習」という希望が多かった。

5. まとめと今後の課題

これまで述べてきた全体結果と属性によるソート結果をまとめると、以下のようになる。

まず、回答者181名のうち半数以上が、信州大学に入学してから自分一人では解決できない問題に直面したことがあり、その相談相手として、多くの者が1～4名の留学生仲間を挙げている。昨年との調査と比べると、相談相手として、指導教官、学部の留学生担当教官、留学生センター教官を挙げた留学生が増えたことも注目される。

また、頻繁に悩んでいる事柄として、「研究・勉強」の進め方と「お金」の問題が多い。勉強・研究の進め方で具体的に悩んでいる事項としては、「講義内容を理解できない」「論文が書けない」が多く挙がっていたが、学部生・大学院生では勉強面での悩みに大きな差異が見られた。お金の問題については、奨学金などの経済的サポートが、留学生の勉学を支える上でも不可欠の要素であるが、調査の結果、約6割の留学生が何らかの奨学金を受給しているものの、そのうちの44.5%の留学生が継続して「お金」の問題を掲げており、また40%がアルバイトをしている実態が明らかになった。さらに、奨学金は、通常1～2年の受給期間を設けているものが多く、留学生にとっては次年度の奨学金を受給できるか否かが不安材料であるとも思われる。

大学に対する要望としては、昨年と同様、「お金の問題の解決」、「宿舎の問題の解決」に対する要望が強いことが明らかになった。分散キャンパスであっても、各地域に国際交流会館を設立することは困難であり、宿舎不足は留学生の大きな負担となっている。今後は、留学生の増加と日本人学生の減少も考慮して大学寮を有効に活用する、後援会設置により民間の安価な下宿を借り上げる、地方自治体との連携により空いている公営住宅を利用する等の解決策が望まれる。いずれにしても、お金と宿舎に関しては、大学だけの問題ではなく、留学生を取り巻く日本社会・地域の理解が必要である。

日本語能力については、自分の日本語能力にある程度の自信がある者が約9割いるにも関わらず、日本語の授業を更に希望する留学生が6割近く存在した。その授業の内容としては、「専門用語の学習」を目的とした日本語の授業を希望する割合が最も高く、専門性に応じた日本語能力の向上を求めていることが分かった。

日本人との接触については、学外で会うほど親しい付き合いをしている留学生は約3割程度だが、今後、日本人と接触する機会を希望する留学生は約9割を占め、日本人と親密になりたいが、その機会をうまく掴めずにいる留学生の実態が分かった。また、日本人と接触するために適当な場として、学外の交流活動、大学主催の交流活動が多く、勉強以外の場での活動を接触の機会として捉えていることが分かる。今後は、留学生だけの活動に

とどまらず、日本人と交流できる自由参加型の小旅行、ティーパーティー、留学生による料理教室などのきっかけ作りの立案を、大学として行っていったはどうであろうか。

最後の信州大学の満足度に関しては、回答者の約6割にあたる留学生が、信州大学に80%ないし100%満足している。これは前回の調査とほぼ同様の結果を得られたことになり、信州大学の留学生受け入れを、ある程度前向きに評価してよい結果と言える。しかし、注意しなければならないのは、前回の調査の回答者が170名、今回の調査が181名であり、2回ともに、全留学生数の約4割が回答をしていない。場合によっては、両年とも回答を拒否した留学生がいた可能性もある。このことを考慮すると、本当に大学に対して不満を抱いている留学生の意見が反映されていないとも言え、次回の調査の際には、郵送返信、回収時期の改善などが必要であろう。

今後の課題としては、回収方法だけではなく、調査項目をより具体的にし、留学生のニーズをより明確化できる調査項目の作成が必要である。また、今後も、毎年または隔年で実施した場合、留学生に煩雑な印象を持たせないためにも、この調査結果を留学生に還元していかなければならない。そのためには、大学だけではなく、周辺地域と留学生の3者が連携し、留学生自身にも、大学の受け入れ体制の整備に自分も参加しているという意識を持たせることが必要である。「ニーズ調査や各種調査に協力しても、自分達の状況改善につながらないから無駄だ」と諦めている留学生も存在している。その姿勢を転換させ、改善に積極的に関わらせる意識改革が必要だと考える。周辺地域については、この調査結果から、学外の交流活動を留学生が接触の場として高く評価していたことを公表し、今後の継続的な交流活動の推進と、開催時期・時間の再検討などを呼びかけていきたい。

前回の調査では、第1回の調査ということもあり、留学生ニーズの全体枠の把握、留学生センターの周知、留学生センターを中心とした他部局の連携の3点が大きな焦点となった。今回の調査では、留学生支援体制の整備には宿舎の問題が依然として重要であること、接触の場としての交流活動にしても、大学だけではなく、周辺地域の協力が不可欠であることが分かった。今後は、この調査をもとに、大学関係者、留学生、周辺地域との3者連携の支援体制整備の必要性を周知させ、その改善を目的とした調査を継続していきたい。

謝 辞

今回の調査には、医学部の牧教官、工学部の高野教官、人文の坂口教官、留学生センターの上條教官、教育学部の城倉事務官、理学部の神澤事務官、農学部の橋倉事務官、繊維学部の福澤事務官、ほか多数の方々のご協力を得て実現可能になりましたことを、この場を借りて、厚く御礼申し上げます。

参考文献

井上 孝代 1997 「留学生の発達援助」多賀出版

佐藤・秋庭 2000 「信州大学の留学生のニーズ調査 ～1999年10月・11月調査において～」
『信州大学留学生センター紀要第1号』

永井・徳井・牧 2000

「留学生の日本人に対する意識変化とその影響要因としての地域の役割について」
JAFSA調査・研究助成プログラム調査・研究報告書

参考資料（調査に用いられた調査表・縮小版）

留学生のニーズ調査

この調査は、留学生の皆さんの今の状態を聞いて、どうやって皆さんの問題を解決していくかを考えるためのものです。信州大学の留学生全体のデータとして使い、個人の情報がもれることはありません。これは、信州大学留学生センターの佐藤友則と経済学部留学生担当の秋庭裕子が実施しています。調査へのご協力よろしくお願ひします。

〈注意事項〉

- ①質問に対する答えを、それぞれ選んでチェックしてください。また、新しい項目を作ったり、中間にチェックしたりしないでください。
- ②最初から順に、記入漏れのないように答えてください。終了後は、再度見なおして提出してください。

1. あなたについての該当項目を選んでください。

1-1. 性 別 ①男性 ②女性

1-2. 年 齢 () 歳

1-3. 出身地域

①中国 ②マレーシア ③台湾 ④韓国 ⑤バングラデシュ ⑥その他の地域

1-4. 所 属 ①学部生 ②大学院生 ③研究生および聴講生

1-5. 滞日期間（平成12年11月時点） ①1年以内 ②1～3年 ③3年以上

1-6. 奨学金の有無

今年度、奨学金を受給していますか（どちらかに○）。 ①はい ②いいえ

2. 相談相手

2-1. 信州大学に入学してから今までに、自分一人ではどうしようもないほど、困ったことがありますか。

①ある ②ない

2-2. 困った時にすぐ相談できる人が何人いますか（単一回答）。

①0人 ②1～2人 ③3～4人 ④5～6人 ⑤7人以上

2-3. 困った時に誰に相談しますか。（複数回答可）

①留学生の友達 ②留学生の先輩 ③日本人学生（チューター含む） ④指導教官

⑤学部の留学生担当教官 ⑥留学生センター教官 ⑦保健婦 ⑧学外の日本人

⑨事務の人 ⑩誰にも相談しない ⑪その他（ ）

2-4. どんなことで、よく心配していますか。(複数回答可)

- ①お金 ②研究・勉強 ③卒業・修了 ④卒業後・修了後 ⑤住居
⑥友人関係 ⑦家族 ⑧恋愛 ⑨自分の健康 ⑩その他()

2-5. 上の質問で、②研究・勉強面を選んだ人に質問します。具体的にどのようなことで悩んでいますか(複数回答可)。

- ①論文が書けない ②講義を聞いても分からない ③資料収集の方法が分からない
④先生とうまくコミュニケーションがとれない ⑤その他()

2-6. 大学にどんな要望がありますか。(複数回答可)

- ①お金の問題の解決 ②宿舍の問題の解決 ③授業・研究の問題の解決
④日本語教育の問題の解決 ⑤トラブル処理に関する問題の解決
⑥その他()

3. 日本語能力

3-1. 自分の日本語能力に自信がありますか(単一回答)。

- ①ある ②まあまあ ③ない

3-2. もっと日本語の授業を多く受けていたいですか(単一回答)。

- ①必要ない ②今のままで十分だ ③受けない

3-3. 上の質問で③受けないを回答した人にお尋ねします。具体的にはどのような授業を多く受けていたいですか(複数回答可)。

- ①講義を聞いて理解できるための授業 ②専門用語の学習のための授業
③就職のためのビジネス日本語の授業 ④論文を書くための授業
⑤その他()

4. アルバイト

4-1. 現在、アルバイトをしていますか。 ①はい ②いいえ

4-2. アルバイトをしている人は、1週間に何時間位していますか。

- ①2時間以下 ②2～4時間 ③4～6時間 ④6時間以上

5. 日本人との接触

5-1. あなたは、日本人とどの程度接触していますか(単一回答)。

- ①あいさつのみ ②授業ではよく話すが、休みに会うほどではない
③放課後や休日に食事をする

5-2. 今後、日本人と接触する機会を持ちたいですか。

- ①持ちたい ②それほど持ちたくない

5-3. 日本人と仲良くなるのに適当な、接触の場はどれですか(複数回答可)。

- ①ゼミ ②授業 ③学外の交流活動 ④大学主催の交流活動 ⑤その他()

6. 総 合

最後に質問します。あなたの、信州大学に対する満足度をパーセンテージで教えてください(単一回答)。

- ①満足度100% ②満足度80% ③満足度60% ④満足度40% ⑤満足度20% ⑥満足度0%